

平成19年度中間決算について

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

1. 個別決算の概要

(1) 損益計算書

(単位：億円)

区 分		当中間期 (A)	前中間期 (B)	増減 (A)-(B)	(参 考) 通期見込
営業収益	高速道路事業	419	404	14	821
	料金収入	403	399	3	774
	道路資産完成高等	15	5	10	46
	関連事業	9	1	7	28
		428	406	21	848
営業費用	高速道路事業	385	373	12	809
	関連事業	9	1	7	27
		394	375	19	837
営業利益	高速道路事業	33	31	2	11
	関連事業	0.1	△ 0.1	0.2	0.5
		33	31	2	12
経 常 利 益		34	31	2	13
中 間 (当 期) 純 利 益		17	15	1	6

注 通期見込は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものです。
したがって、実際の業績は、様々な要因によって異なる場合があります。

①高速道路事業営業損益

高速道路事業では、料金収入及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下、「機構」という。）へ引き渡した資産の売上である道路資産完成高などの営業収益419億円に対し、道路資産賃借料、道路資産完成原価、道路の管理費用の営業費用が385億円となり、営業利益は33億円となりました。これは、工事等の完成が下半期となるものが多く、工事等の完成時に費用を計上すること等の理由により生じているものです。

なお、平成19年度の通期では営業利益11億円を見込んでいます。

②関連事業営業損益

関連事業では、営業収益9億円に対し、営業費用が9億円となり、営業利益は0.1億円となりました。

関連事業のうち鉄道管理受託業務は営業損失0.5億円となりました。これは、受託工事等の完成が下半期となるものが多く、先に受け入れた収入は一旦負債（受託業務前受金）に計上し、工事等の完成時に収益を計上すること

から生じているものです。通期においては、収益と費用が同額となり、損益は発生しない仕組みとなっています。

なお、平成19年度の通期では営業利益0.5億円を見込んでいます。

③中間（当期）純利益

高速道路事業と関連事業を合わせた全事業営業利益は33億円となり、これに営業外収益0.9億円を加え、営業外費用0.3億円を控除した経常利益は34億円となりました。さらに、不要となった機械等の除却により計上した特別損失1億円、法人税等15億円を控除した中間純利益は17億円となりました。

なお、平成19年度の通期では当期純利益6億円を見込んでいます。

(2) 貸借対照表

(単位：億円)

区 分		当中間期末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
資 産	流動資産	197	183	14
	固定資産	226	218	8
		423	401	22
負 債	流動負債	108	111	△ 3
	固定負債	196	187	8
		304	299	5
純資産	資本金	40	40	-
	資本剰余金	40	40	-
	利益剰余金	39	21	17
		119	101	17

①資産の状況

資産の総額は423億円であり、このうち流動資産は197億円、固定資産は226億円となっています。固定資産の主なものは、高速道路事業固定資産90億円、関連事業固定資産62億円、各事業共用固定資産53億円となっています。

②負債及び純資産の状況

負債の総額は304億円であり、このうち流動負債は108億円、固定負債は196億円となっています。負債のうち有利子負債は62億円、うち機構へ引渡す仕掛道路資産分の借入金が29億円となっています。

純資産の総額は119億円であり、国及び地方公共団体からの資本金40億円、資本剰余金40億円、利益剰余金39億円となっています。

(3) 事業の概要

①高速道路事業

平成19事業年度の事業計画に基づき事業を実施し、お客様に安全、安心、快適に道路をご利用いただくとともに、橋梁や道路の万全な維持管理に努めました。

【主な道路管理の状況】

▶耐震補強工事

「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」(H17～H19)に基づき平成19年度内に完成予定である第一江ノ奥高架橋等(西瀬戸自動車道)の耐震補強工事に着手しました。

▶長大橋塗替塗装工事

供用後19年目を経過した瀬戸大橋については、平成18年度より着手した本格的な塗替塗装工事を継続しています。

【企画割引】

利用促進と観光振興を目的とした企画割引として、平成19年4月～5月並びに7月～8月の2回「与島PA Uターン割引」を実施しました。また、旅行会社と連携して企画した「本四2橋めぐり割引クーポン」(宿泊施設とのセット商品)、「しまなみフリー悠遊クーポン」(宿泊施設・JR新幹線・レンタカーとのセット商品)の販売を実施しています。

【社会実験】

昨年末に閣議決定された「道路特定財源の見直しに関する具体策(平成18年12月8日)」において、高速道路料金の引下げなどによる既存高速ネットワークの効率的活用・機能強化のための新たな措置を講ずることとされたことから、弊社においても料金引下げによる影響・効果等の把握を目的とした料金割引社会実験を8月20日より実施しています。

②関連事業

【休憩所等事業(高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの管理)】

お客様に、より快適に、より楽しくご利用いただくために、施設のリニューアルや地元農産物直売所の開設等を行いました。

【受託事業】

これまで培ってきた長大橋の建設、管理技術を活用して、海峡横断道路プロジェクトの技術検討や平戸大橋主ケーブルへの乾燥空気送気システム設置など、国や地方道路公社などからの長大橋に関する調査、設計、工事等を受託しました。

また、国からの生口島道路・大島道路の交通管理業務などのほか、地方公共団体、他の高速道路会社等から関連する道路の維持修繕等を受託するとともに、機構から本州と四国を連絡する鉄道施設(本四淡路線、本四備讃線)の管理業務を受託しました。

2. 連結決算の概要

(1) 連結対象

次の子会社3社を連結対象としています。

会社名	主要な事業内容
JBハイウェイサービス株式会社 株式会社ブリッジ・エンジニアリング 株式会社TNS	休憩所等事業、料金收受管理、交通管理 点検管理、長大橋維持修繕 料金收受機械保守整備

(2) 損益計算書

(単位：億円)

区分	当中間期	(参考) 通期見込
営業収益	434	866
営業費用	399	851
営業利益	34	14
経常利益	36	18
中間(当期)純利益	18	8

営業収益434億円に対し、営業費用が399億円となり、営業利益は34億円となりました。これに営業外収益2億円を加え、営業外費用0.5億円を控除した経常利益は36億円となりました。さらに、不要となった機械等の除却により計上した特別損失1億円、法人税等16億円を控除した中間純利益は18億円となりました。

なお、平成19年度の通期では当期純利益8億円を見込んでいます。

(3) 貸借対照表

(単位：億円)

区分	当中間期末	
資産	流動資産	216
	固定資産	258
		474
負債	流動負債	126
	固定負債	225
		352
純資産	122	

資産の総額は474億円であり、このうち流動資産は216億円、固定資産は258億円となっています。

負債の総額は352億円であり、このうち流動負債は126億円、固定負債は225億円となっています。

純資産の総額は122億円であり、国及び地方公共団体からの資本金40億円、資本剰余金40億円、利益剰余金42億円となっています。